

(第三種郵便物認可) 平成30年(2018年)11月12日(月曜日)

大和合金

航空機向け 18年販売量 倍増

欧州での需要好調

銅合金の鑄造・鍛造品メーカーである大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は2018年の航空機向け材料の販売数量が倍増する見通し。航空機向けにはブッシュと呼ばれる円筒形の鍛造・押出品を部材メーカーや整備会社などに供給している。当初は前年比で7割程度の増加を目指していたが、欧州に本拠を置く新規顧客向けの販売が拡大するなどして、目標値を上振れする見込みとなっている。

市場を注力分野の一つに位置付けており、アルミ青銅や高力黄銅製のブッシュを足回りに使われる軸受けなどに納めている。欧州では17年から供給を始めたドイツの大手航空機部材メーカー向けの出荷が拡大している。また今年に入ってフランスの大手部材メーカーから材料認定を取得したことから、流通業者からの注文が増えた。加えてアジア・米国に立地する既存顧客への供給も堅調に伸びているほか、国内顧客向けも底堅い需要がある。

同社では世界的な機体数の増加で成長が見込まれる航空機向けの